

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-154	13-095	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol problems as a signal for sensitivity to nicotine dependence and future smoking. ニコチン依存症感受性と将来的な喫煙に対するシグナルとしてのアルコール問題		
執筆者		
Dierker L, Selya A, Piasecki T, Rose J, Mermelstein R.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2013 Oct 1;132(3):688-93.doi: 10.1016/j.drugalcdep.2013.03.018.		
キーワード		PMID
ニコチン依存症、喫煙、アルコール問題		23660243
要 旨		
目的： 飲酒は慢性的な喫煙習慣のリスクファクターとしてよく知られている。しかしながら、将来の喫煙に飲酒や飲酒に関連する問題がどのように影響を与えるかはほとんど報告がない。		
方法： Social and Emotional Contexts of Adolescent Smoking Patterns Study (SECASPS)の縦断データを用いて検討を行った。今までに 100 本以下の喫煙経験のある成人 898 人を喫煙経験ありと、100 本以上喫煙したことはあるが 1 日の喫煙が 5 本以下の 152 人を現在の喫煙者として検討した。ベースラインにおける飲酒に関する問題と 48 か月間の追跡期間中の喫煙習慣との関連について検討した。喫煙本数と頻度、ニコチン依存症状について 6 ヶ月、12 ヶ月、24 ヶ月後の 3 時点で調査した。		
結果： 喫煙経験ありの者の中で、喫煙と飲酒に対する調整を行った後、飲酒に関連する問題と 48 か月後の喫煙回数との関係は、ニコチン依存症状によって媒介されていた。現在の喫煙者においては、過去の喫煙形態が 48 か月後の喫煙の回数と関係していた。		
結論： 飲酒に関する問題は、吸い初めの喫煙者にとっては将来の常習的な喫煙の危険因子であった。		